

インドネシア語の受動文と人称動詞

東京外国語大学外国語学部
東南アジア課程インドネシア語専攻
安藤さや香

キーワード：インドネシア語、受動文、人称動詞、FSP、テーマ・レーマ

0. はじめに

インドネシア語¹には、人称代名詞の短縮形+*me* 他動詞のゼロ(ϕ)形からなる「人称動詞」がある。以下本稿の例文では、問題となる人称+*me* 他動詞のゼロ形という形式、およびそれに対応する訳を太字で示す。

(1) Pintu **kubanting**. 「ドアを叩きつけた」

door *ku-strike*

(Dahana 2004: 6)

(2) Jaring itu **dibuat** oleh Bram dan anakku.

net that *di-make* by *Bram* and child-1sg²

「その網はブラムと僕の子どもが**作った**」

(Ibrahim 2004: 17)

(グロス、通し番号は筆者による)

例文(1)の *kubanting* は、一人称単数代名詞 *aku* の短縮形 *ku-*+*membanting* 「叩きつける」のゼロ形、例文(2)の *dibuat* は、三人称代名詞 *dia* の短縮形 *di-*+*membuat* 「作る」のゼロ形からなる。

インドネシア語文法においてこれらの人称動詞は、能動／受動という対立の中で語られることが多かった。しかし、それだけでは人称動詞を含む構文を理解するのに十分ではない。本稿では、一人称単数代名詞 *aku* の短縮形 *ku-*を用いた *ku-*人称動詞の用例収集を行い、その考察を通して、人称動詞を含む文がどのような特徴を持つかということを明らかにしたい。なお、本稿で使用した例文のグロス、通し番号は筆者によるものである。

1. 先行研究

1.1. 佐々木(1968)の見解

佐々木(1968)は、インドネシア語の受動文を、従来の受動／能動という枠組ではなく、

¹ インドネシア語はオーストロネシア語族、西部オーストロネシア語派に属するムラユ語の一変種である。インドネシア共和国の国語。およそ2億人の話者がいると考えられる(柴田 1992: 363-364)。インドネシア語の音素には、母音/a, e, ə, i, o, u/, 半母音/y, w/, 子音/p, t, tʃ, k, b, d, dʒ, g, m, n, ɲ, f, s, ʃ, x, h, v, z, r, l/がある(柴田 1988: 715)。インドネシア語の表記はローマ字を用い、上記の音素はそれぞれ現在の正書法では a, e, i, o, u, y, w, p, t, c, k, b, d, j, g, m, n, ny, ng, f, s, sy, kh, h, v, z, r, l と表記する。

² グロスに用いる略号は次のとおり。 1=first person; 2=second person; 3=third person; CL=classifier; COP=copula; ex=exclusive; IMP=imperative mood; in=inclusive; INT=intensive mood; NML=nominalizer; pl=plural; PM=plural marker; Q=question; RP=relative pronoun; sg=singular.

題目語——述語——補足語という枠組でとらえている。以下に、佐々木(1968)が提案するインドネシア語文のとらえ方を紹介する（要約は筆者による。例文の一部を、正書法に則った表記に改めた）。

用いる記号は、T : S/P である（それぞれ、T はテーマ、トピックなど、S はインドネシア語の *sebutan* 述語、P は *pelengkap* 補足語の頭文字からとった）。

インドネシア語で受動／能動の別を語るのはあまり意味がなく、大切なのは題目語を持つ文と持たない文の違いである。

(3) Saya menulis surat. 「私は手紙を書きました」

1sg *me*-write letter

(4) Surat saya tulis. 「手紙は書きました」

letter 1sg ϕ -write

(5) Saya tulis surat. 「手紙を書きました」

1sg ϕ -write letter

上の例文は、それぞれ(3)T : S/P、(4)T : S、(5)S/P と表される。例文(3)の *saya* が題目語であるのに対して、例文(4)、(5)の *saya* は「動作主の規定語」と呼びうるものである。

(佐々木 1968: 84-89)

このように佐々木(1968)は、例文(5)のような人称 + *me* 他動詞のゼロ形—被動作主という語順の文を、S/P 構造の題目語のない文ととらえている。そして、人称動詞は題目語にはなりえないものと見ている。

1. 2. 牛江(1975)の見解

牛江(1975)は、1.1.の例文(3)、(4)、(5)のような文の違いを、動作主、被動作主、動作の3つの要素のうちのどれを中心に述べるかの違いであると説明する。なお、以下の例文(6)～(8)の訳および太字部分は牛江(1975)に従った。

(6) Aku membaca koran. 「**ぼくが**新聞を読む」

1sg *me*-read newspaper

(牛江 1975: 69)

(7) Koran kubaca. 「**新聞を**ぼくは読む」

newspaper *ku*-read

(牛江 1975: 69)

(8) Kubaca koran. 「ぼくは**新聞を**読む」

ku-read newspaper

(牛江 1975: 69)

牛江(1975)によると、例文(6)は動作主を、例文(7)は被動作主を、例文(8)は動作を中心に述べているということになる。

1. 3. 松野(1990)の見解

松野(1990)は、インドネシア語の受動文をテーマ・レーマ³という観点から分析している。松野(1990)は、人称動詞を用いた受動文を、以下の4つに分類した。[]はアクセントのあるユニットである(松野 1990: 42)。

(A) 対象がテーマ

1. 対象前置型 対象 // 行為者+動詞
2. 対象後置型 [行為者+動詞] // 対象

(B) 対象がレーマ

3. 対象後置型 行為者+動詞 // 対象
4. 対象前置型 [対象] // 行為者+動詞 (松野 1990: 43)

松野(1990)は、上の4つのパターンについて実例を元に検証を行っている。ここでは、本稿3.2.での考察に関係している2つめと3つめのパターンに関して詳しく見てゆくことにする。2つめのパターンに関して松野(1990)は、「最初のパターンと比べると、レーマたる動作がいきなり頭に出されるので、その分ダイナミックな印象を受ける。したがって相対的にテーマの重要性が低くなるようである」(松野 1990: 45-46)と述べている。以下の例文(9)、(10)では松野(1990)に従い、テーマに下線、レーマに波線を施した。なお、訳は松野(1990)のままとした。

(9) Aku tak mengindahkan suara bunda. Tiba-tiba kepastian bunda hilang.

1sg not me-heed voice mother suddenly certainty mother be.lost

Diciumnya aku dengan sayangnya. Diturunkannya aku dari ranjang.

di-kiss-3sg 1sg with love-3sg di-get.down-3sg 1sg from iron.bed

Diletakkannya aku di lantai.

di-put-3sg 1sg at floor

「わたしは母のことを聞かなかった。母のもつ確かさが突然消えうせてしまったのだ。母はわたしにいとおしようにキスをした。母はわたしを寝台から降ろした。そしてわたしを床の上においた」

(松野 1990: 46)

3つめのパターンに関して松野(1990)は、「動作がテーマとなって、それに続く名詞句を重要な情報として提示するパターンである。動作は、既出の文脈にすでに存在しているもの、あるいはそれから当然推測できるもの、(中略)などがある」(松野 1990: 47)と述べている。

(10) Banyak? Kan kuberikan tadi hanya empat buah kepadamu?

many not ku-give a.while.ago only four CL to-2sg

³ テーマ・レーマに関しては、Halliday(1994)等を参照のこと。

「たくさんだって。だって、さっきわたしはたったの 4粒しかあげなかったでしょ」

(松野 1990: 47)

松野(1990)はこのようにテーマ・レーマという観点をを用いて、被動作主が人称動詞よりも後に置かれている受動文に関して、「それ自身異なる2つのパターンをもっている」(松野 1990: 37)ことを示した。

2. 用例収集

Kompas 紙に掲載された短編小説集 2004 年版（総単語数 28793 語。16 人の作家による 16 作品からなる。詳しくは、巻末の参考資料を参照のこと）をコーパスとして使用する。今回は ku-を動作主とする人称動詞に対象を絞って議論を進めていくため、コーパスから ku-を動作主とする人称動詞を収集する。

3. 結果と考察

3.1. 結果

ku-人称動詞は全部で 147 例得られた。そのうち、被動作主が人称動詞よりも前にあり、受動らしい語順をとっていた例は 59 例あった。その他の 88 例については、以下のような例が見られた。

(11) Aku mau bunuh diri. Tak bisa. Sudah **kucoba** beberapa kali.

1sg want kill self not can already ku-try same time

「自殺したい。出来ない。すでに何度か私は試した」

(Radhar 2004: 9)

(12) **Kudengar** kamu akan kerja di Jakarta, Luh?

ku-hear 2sg will work at Jakarta Luh

「君はジャカルタで働くんだって聞いたよ」

(Arcana 2004: 41)

(13) Tanpa **kusadari**, aku berlari keluar dari ruangan.

without ku-realize 1sg run go.out from room

「自覚なしに、僕は部屋の外に逃げ出した」

(Nugroho 2004: 80)

例文(11)では coba（試す）という動作の対象 bunuh diri（自殺）が前の文にある。kucoba の直前、直後に被動作主はないが、松野(1990)も「テーマとして明白なものは省略される」(松野 1990: 44)と述べ、例文(11)のような例も受動の一種であると考えている。こういった例が 5 例あった。

また、例文(12)は、1.1.の例文(5)、1.2.の例文(8)同様、被動作主が人称動詞よりも後に置かれており、きわめて能動文に近い語順である。こういった例が 79 例あった。これに関しては、3.2.で更なる考察を加える。

その他に、例文(13)のように、人称動詞が従属節内に現れて、副詞的な役割を果たすものが4例あった。

3.2. 考察

3.1.で述べたように、今回の用例収集では ku-人称動詞を用いているが語順がきわめて能動文に近い例が79例見られた。これらの例に使用されている me 他動詞は次項の表1に示す通りであった。

表1: ku-人称動詞として現れた me 他動詞

用例数	他動詞
9 例	mendengar (聞く)
8 例	melihat (見る)
4 例	membiarkan (～させておく) mengatakan (言う)
3 例	menemukan (見つける) mengira (思う) menyadari (気付く、認識する) menyaksikan (目撃する)
2 例	memberikan (与える) melupakan (忘れる) membisikkan (ささやく) memompa (ポンプで送り出す) mengenal (～だと見分ける)
1 例	meladeni (応対する) melaksanakan (実行する) melempar (投げる) melipat (折る) membayangkan (想像する) membunuh (殺す) memikirkan ⁴ (考える) memotong (切る) memperhatikan (気に留める) memperlihatkan (見せる) mencari (探す) mendapatkan (手に入れる) menduga (推測する) mendesiskan (わめく) menelan (飲み込む) menemui (会う) menerima (受ける) mengakhiri (終わらせる) mengenang (偲ぶ) mengerti ⁵ (理解する) mengetahui (知る) menghitung (数える) mengibas-ngibaskan (振る) mengingat (覚えている) menguatkan (強める) mengungkapkan (表現する) menjawab (答える) menulis (書く) menyalakan (点ける) menyangka (思う) menyematkan (貼り付ける) menyerahkan (任せる)

表1に示したように、ku-人称動詞の形で現れるのは mendengar (聞く)、melihat (見る)、mengira (思う)、menemukan (見つける)、menyadari (気付く、認識する)、

⁴ berpikir もしくは memikirkan という形が一般的であるが、用例中では kupikir という形で現れたので、ここには memikir として記す。

⁵用例中では kumengerti という形で現れた。me 他動詞 mengerti は、di 形の場合も dimengerti という形をとる特殊な語である。

menyaksikan (目撃する)、mengenal (～だと見分ける) 等の知覚動詞が多いことがわかる。また、mendengar (聞く)、melihat (見る) を始め、mengatakan (言う)、membisikkan (ささやく) など後ろに節が続く動詞が多い。そして、実際に後ろに節が続いているものは、79 例中 39 例であった。

(14) Tapi, **kudengar** ia mendengkur keras.

but ku-listen 3sg me-snore hard

「しかし、彼が大きくいびきをかいているのを**私は聞いた**」 (Dahana 2004: 5)

(15) (略) sebab sering **kulihat** mereka membuang makanan mereka sendiri di

because often ku-see 3pl me-throw.away food 3pl self at

tempat sampah.

place garbage

「(略) 彼らが自分の食べ物をゴミ箱に捨てているのをよく**見かけた**のだから」

(EA 2004:143)

もしくは、後に被動作主を表す長めの句が置かれている場合がいくつかある。

(16) Berharap di tempat lain akan **kutemukan** sebuah tempat di mana aku bisa

wish at place other will ku-find one-CL place at where 1sg can

diterima seutuh-utuhnya.

di-receive as.whole.as.possible

「別のところで私がありのままで受け入れられる場所を**見つけます**ように」

(Ibrahim 2004: 90)

被動作主が後ろにある ku-人称動詞文で、後ろが節になっている 39 例に関しては、節の平均単語数は約 8.56 語、後ろが節になっていない 40 例に関しては、後ろの句の平均単語数は約 4.68 語であった。これに対して、被動作主が ku-人称動詞よりも前にある (yang 節内のものや被動作主が他の句内にあるものは除く⁶⁾) 20 例では、被動作主の平均単語数は約 2.35 語であった。これを下の表 2 に図示する。

表 2: 構文別被動作主平均単語数

被動作主の位置	節になっているかどうか	用例数	平均単語数
ku-人称動詞の後	節になっている	39 例	8.56 語
	節になっていない	40 例	4.68 語
ku-人称動詞の前	節になっていない	20 例	2.35 語

⁶ 1.1.の例文(4)と(5)、および 1.2.の例文(7)と(8)に見られるような被動作主一人称動詞という構文と人称動詞—被動作主という構文の対立には直接関係がないため、ここでは考慮に入れない。

被動作主が ku-人称動詞の後にある場合全体 79 例の平均は 6.59 単語であり、被動作主が ku-人称動詞の後にある場合全体では、被動作主が ku-人称動詞の前にある場合よりも 2 倍以上長くなっている。

以上の結果を総合して考えると、ku-人称動詞の後に被動作主が置かれるような場合には、語られる内容である被動作主のほうが中心に述べられており、動作や動作主は相対的に重要性が低くなっているような場合が多いと考えられる。

また、1.3.で見たように、松野(1990)は人称動詞—被動作主という語順の文を、被動作主がテーマの場合と被動作主がレーマの場合の 2 つに分類した。先にも述べた例文(14)～(16)などは、被動作主がレーマとなっているパターンであるといえるし、また数の上では少ないながらも、被動作主がテーマとなっているといえる例も見られた。よって、松野(1990)が示した 2 つのパターンが存在することに異論はない。しかし、この 2 つのパターンに当てはまらない例も多数存在する。

(17) Sering **kuladeni** tubuh bugilku di kamar mandi.

often ku-serve body nude-1sg at room bath

「しばしば浴室で、自分の裸体を可愛がった」

(Dahana 2004: 8)

(18) Dengan kursi roda **kulaksanakan** semua kegiatan.

with chair wheel ku-perform all activity

「車椅子で全ての動作を行った」

(Dahana 2004: 8)

例文(17)、(18)は、動作と被動作主をテーマ・レーマのどちらかに割り当てるとということが難しい。どちらかという、動作と被動作主が結合して出来たメッセージ全体がこれらの文の中核を担っているように感じられる。つまり、テーマ・レーマという観点から見ると、動作—被動作主という節全体がレーマをなしているということになる。こういった例のように、人称動詞が人称動詞—被動作主という語順で用いられる場合には、節（もしくは文）全体がレーマ性の高いものである場合もあるということが明らかになった。

3.3. まとめ

以上、3.2.の考察で、特に一人称代名詞 *aku* の短縮形 *ku-*を用いた人称動詞が人称動詞—被動作主という語順が用いられる場合には、

- 1) 知覚動詞や節をとる動詞が多い
- 2) 被動作主が長めになる
- 3) 被動作主、もしくは人称動詞—被動作主からなる節全体が中心に述べられている

といった場合が主であることがわかった。

4. おわりに

今回は ku-人称動詞に関してのみ考察を行ったが、人称動詞全体の特徴を明らかにするためには kau-人称動詞や di-人称動詞に関しても同様の考察を行う必要がある。

参考文献

- 牛江清名 (1975) 『インドネシア語の入門』 東京: 白水社
- 佐々木重次 (1968) 「インドネシア文の構造」『東京外国語大学論集』 17: 83-93
- 柴田紀夫 (1988) 「インドネシア語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 (世界言語編第一巻)』: 712-717, 東京: 三省堂
- _____ (1992) 「ムラユ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 (世界言語編第四巻)』: 363-380, 東京: 三省堂
- 松野明久 (1990) 「テーマ・レーマとインドネシア語における受動の問題」『大阪外国語大学論集』 3: 35-53
- Halliday, M. A. K. (1994) *An Introduction to Functional Grammar*. (2nd Reprinted Edition). London; Edward Arnold.

参考資料

Kenedi Nurhan (ed.). (2004) *Sepi pun Menari di Tepi Hari*. Jakarta; Penerbit Buku Kompas.

Dahana, R.P.	<i>Sepi pun Menari di Tepi Hari.</i>	1-12.
Ibrahim, R.I.	<i>Jaring Laba-laba.</i>	3-20.
Prananto, J.	<i>Dua Wanita Cantik.</i>	21-30.
Damono, S.D.	<i>Suatu Hari di Bulan Desember 2002.</i>	31-36.
Arcana, P.F.	<i>Bunga Jepun.</i>	37-48.
Soleman, H.	<i>Surat Keramik.</i>	49-62.
Kuntowijoyo.	<i>Pelajaran Pertama bagi Calon Politisi.</i>	63-74.
Nugroho, Y.	<i>Laki-laki yang Menusuk Bola Matanya.</i>	75-82.
Ibrahim, R.I.	<i>Kabar dari Bambang.</i>	83-92.
Danujaya, B.	<i>Semakin dan Semakin ke Barat.</i>	93-120.
Sawitri, C.	<i>Mati Sunyi.</i>	103-114.
Sarjono, A. R.	<i>Keroncong Cinta.</i>	115-128.
Tranggono, I.	<i>Liang.</i>	129-138.
EA, P.	<i>Gadis Kecil dan Perempuan yang Terluka.</i>	139-148.
Triwikromo, T.	<i>Seperti Gerimis yang Meruncing Merah.</i>	149-158.
Sunarta, W.	<i>Cakra Punarbhawa (Kisah Lima Penjelmaan).</i>	59-166.